





凡此のくくくくくく田植

字を 祖おひく 紙細くらの

道江津 一く ね 紙 紙 紙

く利ふのくく 草 一く 一く 一く



姓平野号梅園又
平角盛岡人

以てらるゝと玉一連筆跡と云ふ

辰の西平隣山西の某より

る名にきふきし世に白紙平

下らるゝ此の由きハ之矣

全月の全きんがぶらへ

平角盛岡





又每於

梅子下

五女

弟一也

姓小野号松涛楯
永二盛園人
素郷

素郷





成姓复目号随
 美又号贇亭
 住于多田
 京都人



春夕野

のりや

喰ふ魚

成美画并句



竹為友

いおけり

いそ

いそ

あき

いそ

いそ
あき

いそ

いそ

十返舎九

東都之作者

茅嶽山能花兒
有満かひ

かみおあめ

右手糸加
いそ

いそ
いそ

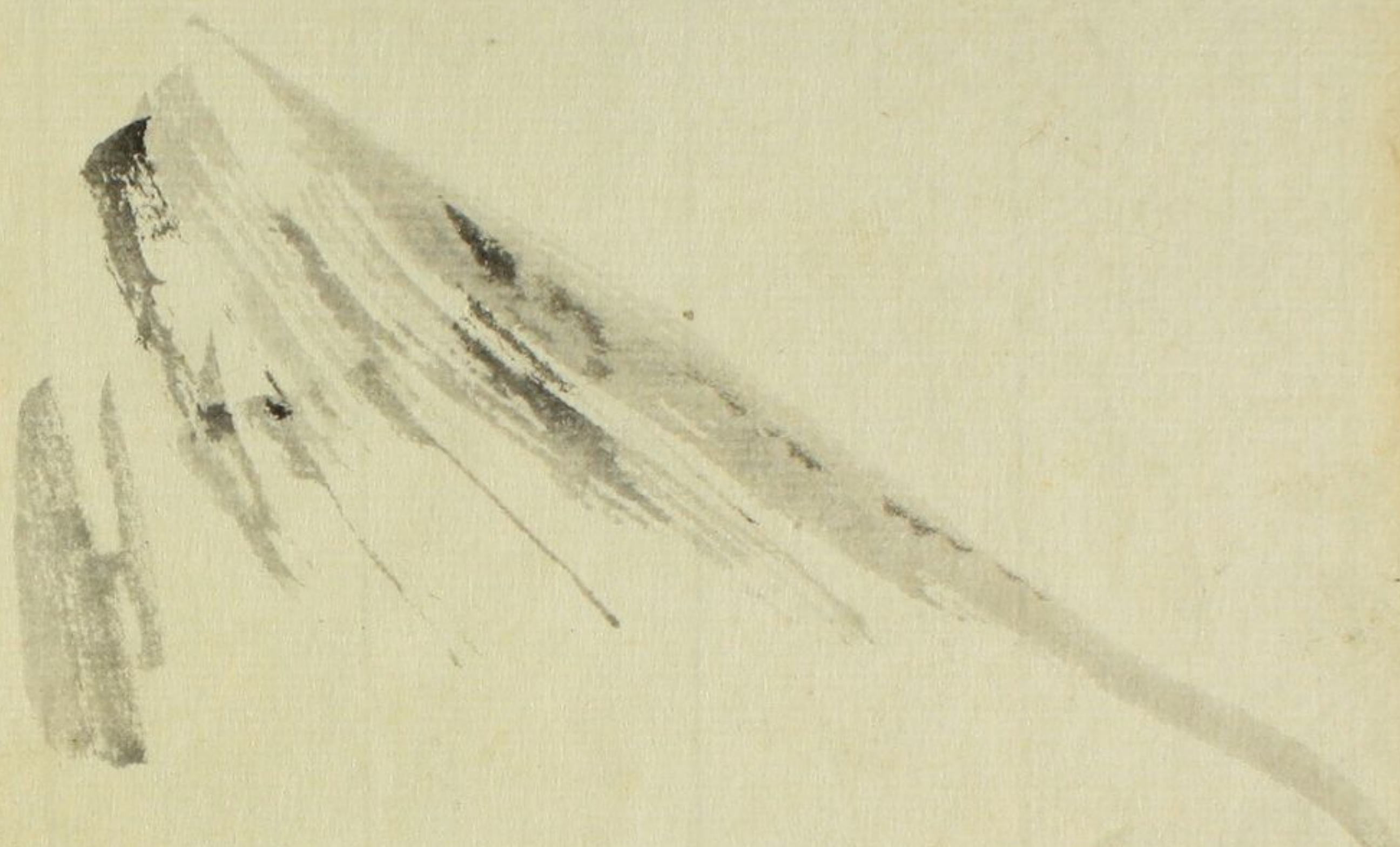
いそ
いそ

いそ

秋
去
年

名
子
乃

山
の
行



時
雨

加賀

北
平





雨後晴
雨後晴

雨後晴

雨後晴





大

三三三三

乙号
洞号
西寺
謚曰
萃藏
乙因
屋主

号
無
寫
仙
又
号
生
白

洞
八
戸
人
葬
干
尾
外
兼

西
寺
謚
曰
萃
藏
乙
因
屋
主

いそそそ
月見
之
何
半
の
終
乙
内





芳の年日あるを
 如く
 子
 祝
 人
 堂曰峰寿时院盛照
 号其模氏又号佳句
 人
 峰寿



中山越入

土ま乃とよみ

中山能秀金

中山

陸奥州

国路

やうな



芳の事(一)ありき

如の事
しあるも
如の事

如の事
如の事

如の事
如の事

如の事
如の事



名山越んて

中山能秀金

名山越んて

陸奥州

國姓

たむけしるは

中山能秀金

てしつとまてくお
みく自おふ春れ
くつ定のふお
あつせいのる
てしつとまてくお

かたつとまてくお

茶園
つとま



少月なるといふに及ばぬ月

杜若の如くは二君の如くは

借て来りてとらんては

後かえて二君の如くは乃敏

二月巻

二月巻 鶏路 花巻の巻



打染ては直に

二葉北の如くは

二月巻 二月

念尔嶺

の

力

の

長 班常世田号椿海
翠 下 總人居于羽州袖
之 浦春秋庵

精安長理



壽那留秋

ま

秋の

班五十嵐俗稱文六
東都人 梅夫

梅夫



道彦
姓村上号金令舎
住于東都本白銀
町又号十時庵

彦

彦

彦

彦



平安新様

姓足立号竹逢居
東都人一蕙

有之

也

一
蕙

い

く

あ

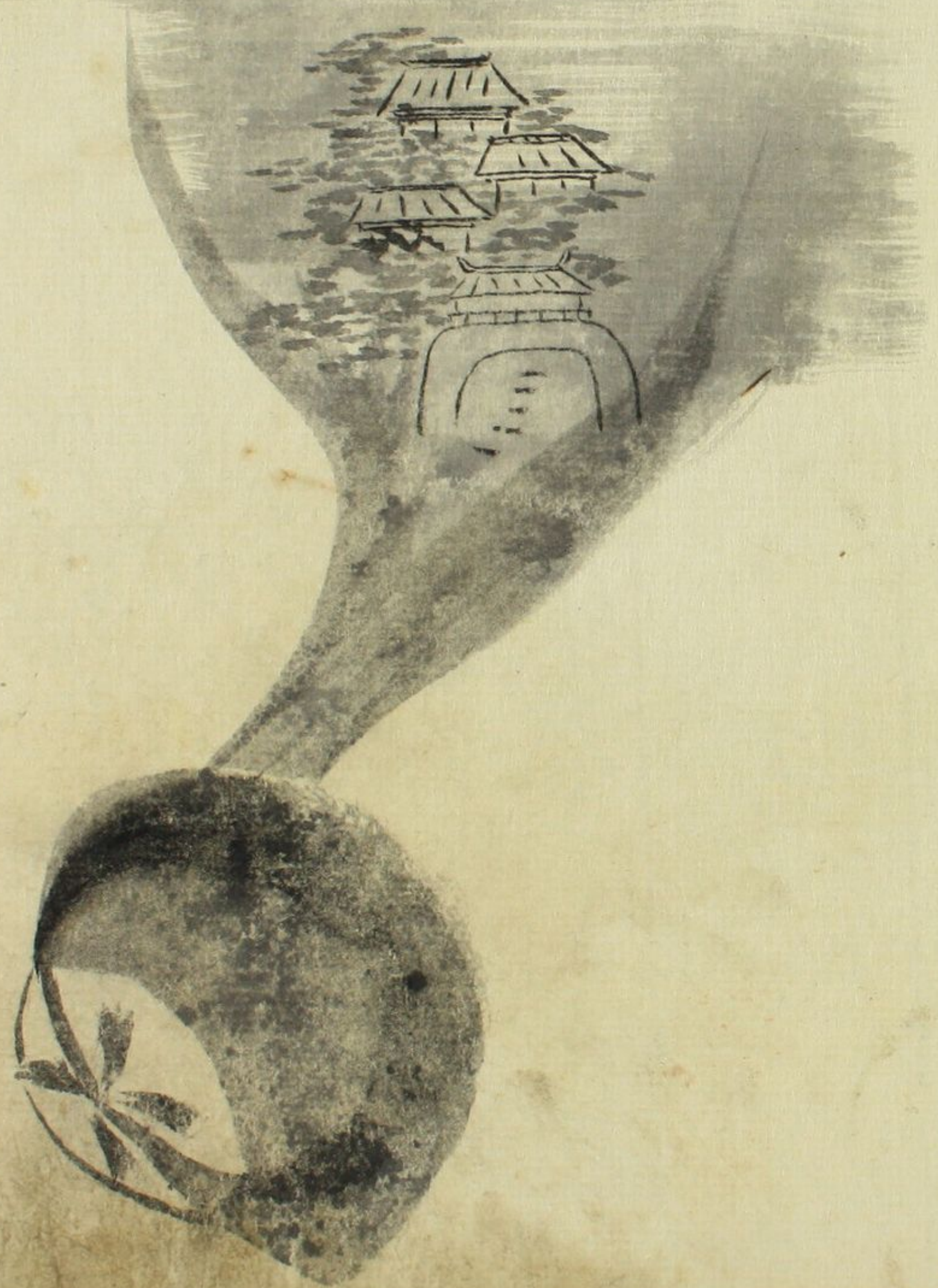
表
表
表

かきかき靴襪

藤靴ききゆり
ちりちりも鳥は音
おきかききき

浴

行高





丁巳年



玉屑

夜安神樂

牡丹堂

夜安神樂
牡丹堂

釋氏号栗本住持
播磨米田邑神宮寺
玉屑

之四碑之三

梅萃落盡李花白

四月山村稍覺春

想得京城旧園地

他年終不混風塵

暖の

白さののびる

あけ

ゆ

春



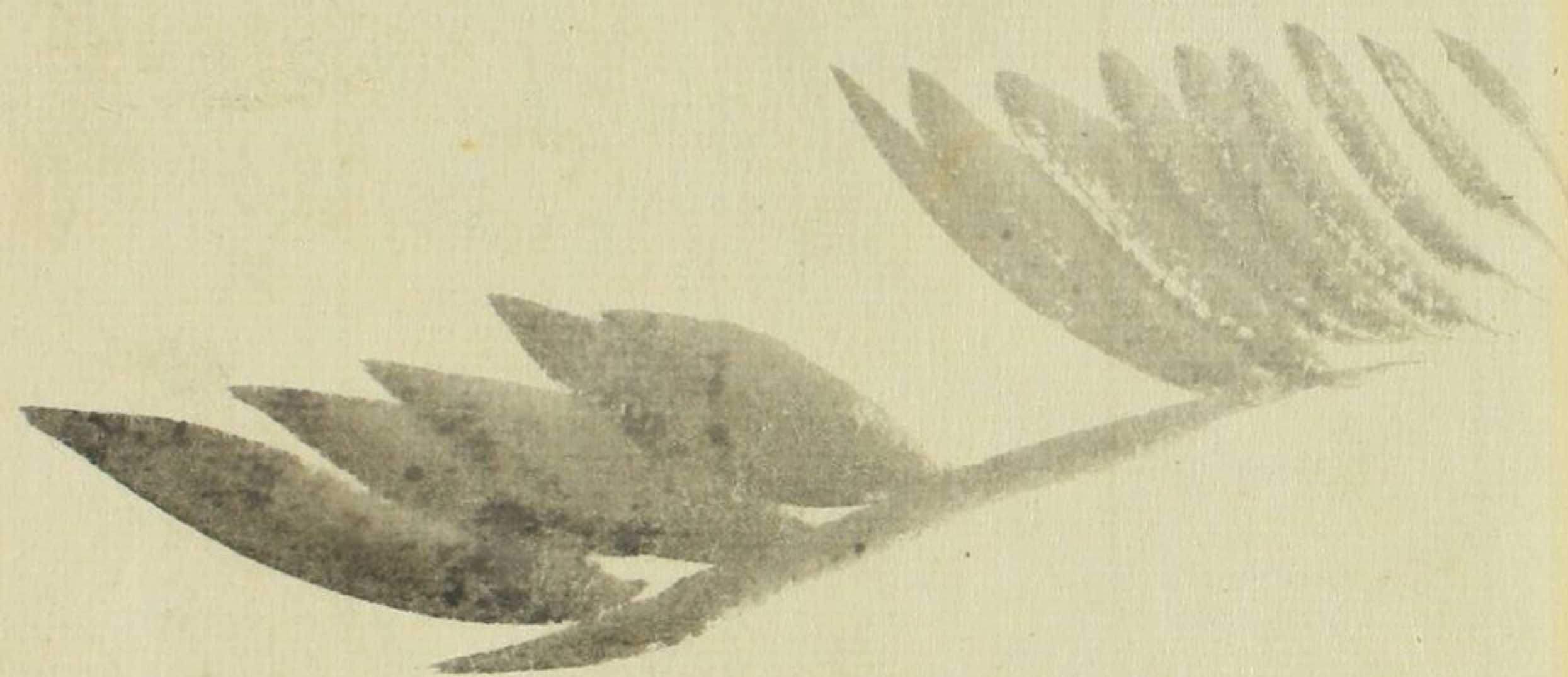
五十嵐梅夫
京都人
ナシ

鳩のまのしら

い

く

ま



第百廿一
寫



童厚姓菅原没
于江州美仲寺

極妙

凡之入下

二日

有之

了於明月為物不之
心之在帶一矣千六
賞心之自以茶以月
年之矣

童厚之友
美仲寺
法印



長齋

姓七五三名公濟字廷美
俗號柳郎在聖門浪華人

長齋



之
自
志
之
終
存
之
名
有
之
也
梅
わ
う
那

姓大伴号旧國
浪華人 大江丸

まの
う
た
お

々
子



人
物
比
本
比
比

三

招集瓦禮茶席上歲年
 好奇屋邇董珍與尋常
 於千家不玩茶祀最禱
 佳人驚賓主高笑羊日
 衍

木白

小竹



生樋口号魚名庵
稱松軒伊賀上野
人 士得

母方子方

子方子方

井 月 知

此 好 松 軒
士 得



蘭溪齋内記



七

七

西のた
さくさくも
あつた
てん



五月入
まふ
あつた
てん



号菊舎又佻諧
書林京三條通人
其成

之
皇

君口七
月
日

二月

其成

後
乃

痛
之
心

卯
之
心

卯

東山隱士号狼狽
齋又号佻諧三昧
室
土卯

廿

三十一

かき
しん
た
か
か
か
か
か

は
の
し
の
し



し
か
か
か
か
か
か
か

か
か
か
か

あぢき丸

あぢき丸

三郎

姓高橋号二策
園京師人
荷屋

あぢき丸

あぢき丸

三郎



蝶恋花

春日
 春
 日
 已
 矣
 夕
 陽
 紅
 似
 火
 映
 花
 枝
 蝶
 飛
 舞
 輕
 盈
 似
 夢
 隨
 風
 散
 落
 歸
 來
 猶
 憶
 昔
 年
 事
 一
 切
 成
 空
 笑
 語
 誰
 能
 記
 猶
 憶
 昔
 年
 事
 一
 切
 成
 空
 笑
 語
 誰
 能
 記

51

お

お

お

お

江

中

提

て

人

の

り

小

字

紙

格

伊賀上野東所
新堂屋

格州カ

舞

舞

舞

舞

舞



与尔坊
宰加



法



雁

信

字中其及

須磨也



田園樂

醉卧石苔上
鳥還露滿巾

醒聞山叟語
同是掛冠人

不可得齋稿



不斗方碑のり中か

海に— 船まのりか

石— ころを耕し

ふり得



海に— 船まのりか

不斗方碑

海に— 船まのりか

姓平野号梅園
盛園人
平角

かきまはし

梅毛

平角

平角

平角



長
明
七
任
創

抄
免
了

水
離
々

孝
字
画
贊



主人
の
書
人
日
本



子乃石の

くろり

子乃石
の
書
人
日
本

水

斗
風



接の序

接の序

以下

り接の序

地
の
序

接の序

接の序

接の序

接の序

雁の来る
長きぬさ
と

太昌



あしみの足夜
きし

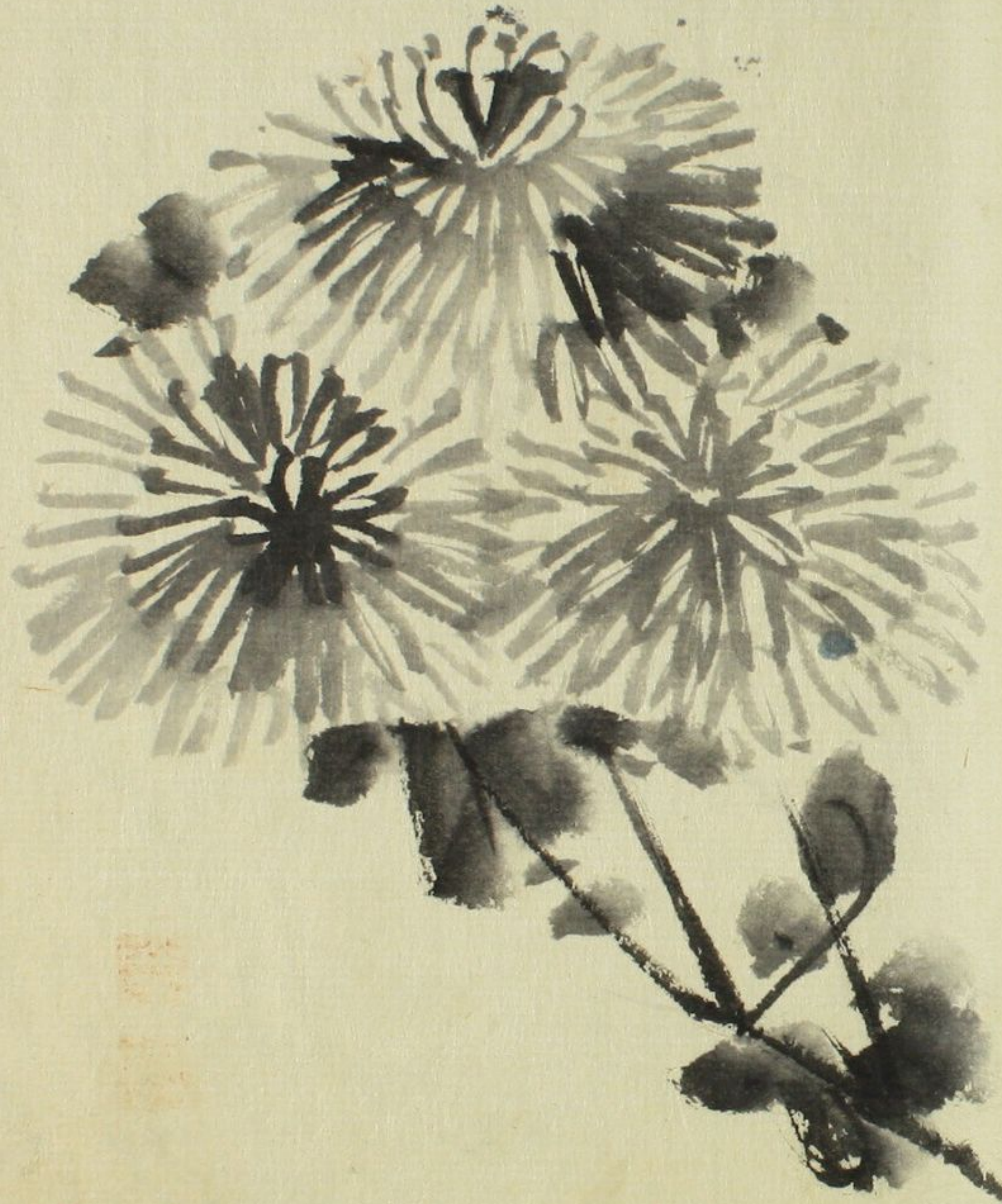
月まの命すあ
えんしるる回世

又代てあまのま
中麻子とあま

ねま

ま

号松窓桐子牛院
法下仙堂白石
優波甘室 乙二



Red square seal impression with Chinese characters.

菊堂

Two red square seal impressions, one above the other, with Chinese characters.

姓伊藤名祐連号
雲鈴房字又六盛
岡人又東莠



梅
樹

八月



松
林

月夜

雲鈴房
東莠
之

花鳥

あけ暮

夕の蝶

浪花吾子

於



いもも夏あつらひ
しき花もさるはな

涼民のあつらひ
多花梨 上野のくに梅木山人

梅木山人
いもも夏あつらひ



号椿亭居士平
安下川原俳仙堂
定雅

あしをゆはのち

白の枝

あまの枝

定雅

白心のち人子
いそぎな
葉のち

寫


五十三

五十二

五十四

志はりわ

急う急う

うかんの甲

修紙

なまらけ

おろし下らぬ

空あまらさ
仙丸

七夕

七夕の夜

風が吹く

七夕の風

七夕の夜



正月十六日

梅ありや

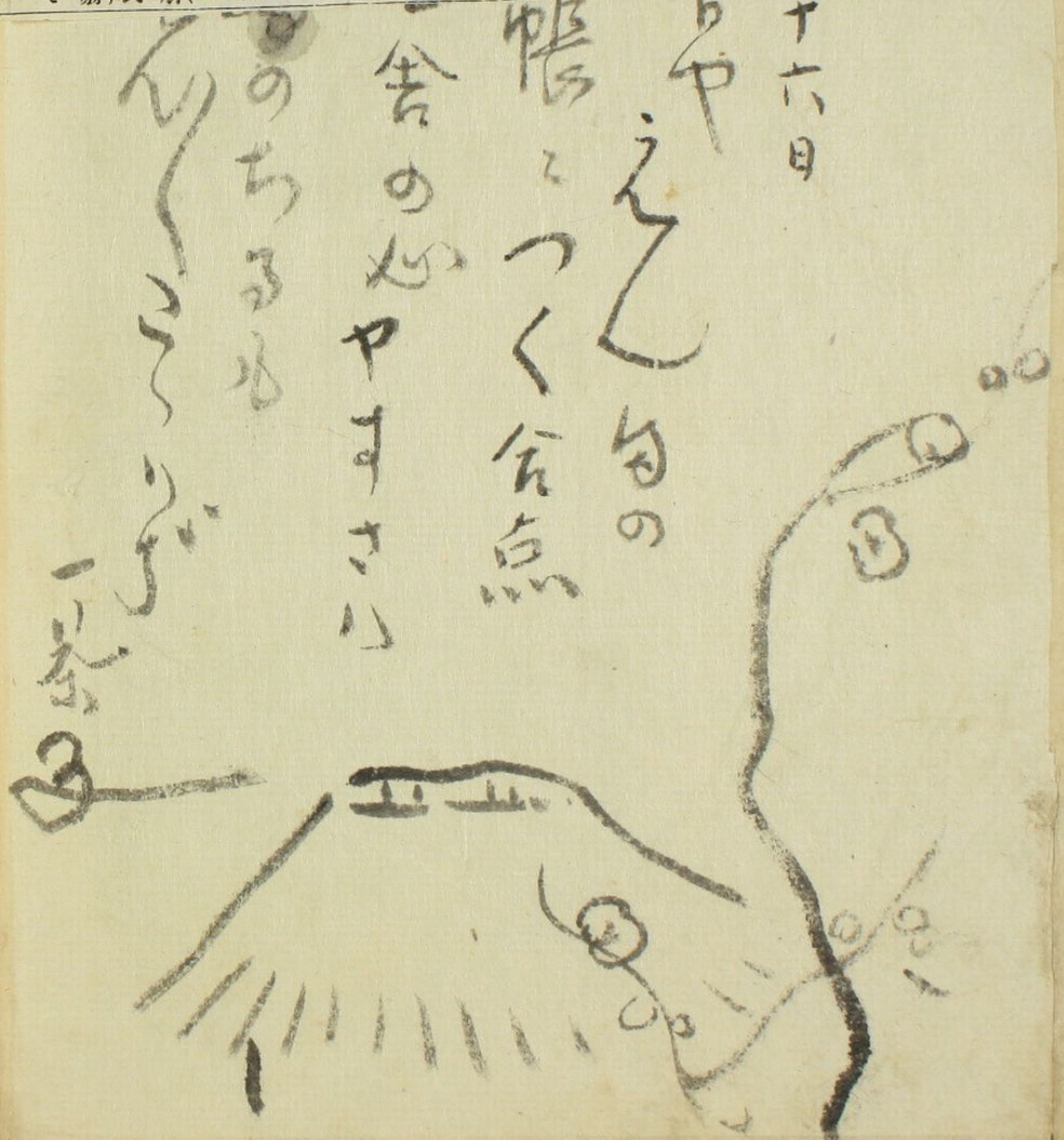
えし句の

帳つく念点

舎の心やすさ

のちるも

ひくも



○長野地方の茶刈
○茶翁の短冊十圓
○茶翁の短冊十圓 柏原俳諧寺の一茶坊世にありし時は俳風時流を抜きしと雖も知る人稀に郷黨擧て疎んせしより「故郷やよるもさほるも茨の花」の句を吟じたりしが中野の代官大塚某これを惜み歿後渠が時の泰平を謳歌せし「松蔭に寝てくふ六十餘州かか」の吟を刻して碑を建てたるよりや「茶の名を知られ近時其遺風を慕ふもの亦た甚だ多くかり隨て遺墨も價貴く成りゆけるが長野市西町露木秋圃氏が其松蔭の短冊を秘藏せし處此程越後新潟市の諸川治七氏に所望され金拾圓にて譲渡せしといふ茶翁地下にありて尚し此事を聞ば呵々大笑して其人情轉移の甚きを嘲るるべし

茶あり

茶と

拾

茶



本
 田
 田舎の心
 やすさ
 田舎の心
 やすさ

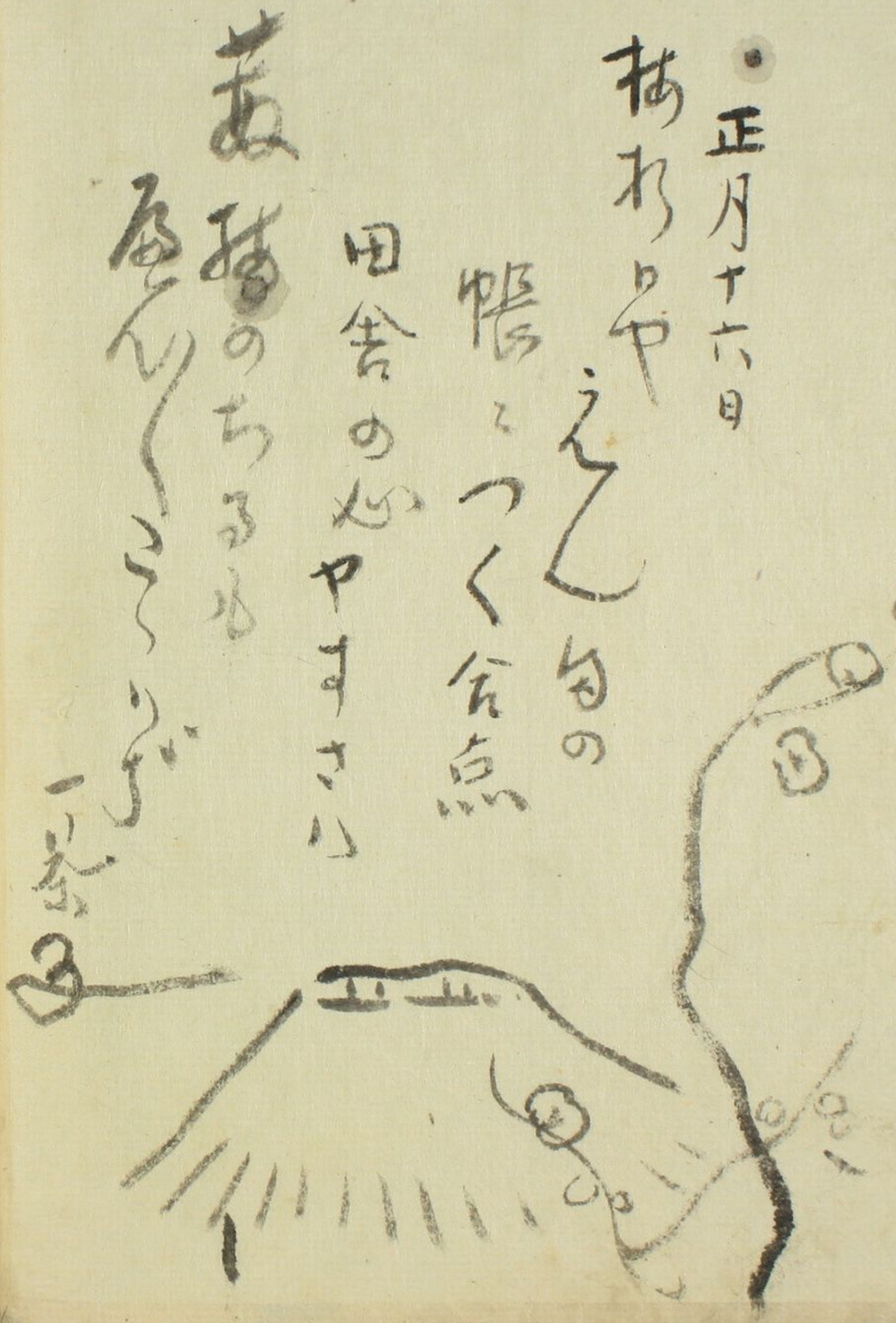


拾

天
 天
 天

正月十六日

梅あり



芝の根

根の

節の

有る



一の
南
し
命
得
得

秋之契——石
とく

居梅の
曲く

ふふ了

意の

い

能
標



南真玉

14

14

14



教葉迄民年



福
壽

五
九

辛未仲夏



翠壑主人



風

一

く
の
女



亦
亦



11 to m^r X.
 je ne sais pas ^{citoyen} français
 mon patri, mais ^{de} Genève
 je suis le plus
 parble au meume
 et retourne au
 ce pay, une fois et
 deux fois et le plus
 frequemment, il y a
 toujours battle guerrie
 cytoyens japonais
 bluié ma pied.

招
 之
 風
 破
 招
 之
 風
 破

十一
 女

11

花乃女



洛の湯屋
と



ちねの口

花
酒

花
酒

144
D-a de kepen

Komt

Sone Scheem.

雨後有旱

145
Nobiana
lyaatij

146
あま川

あま川

其月雨

あま川

易富江山地色新
西风吹叶已成声
竹石东篱菊日
来

村家独菊

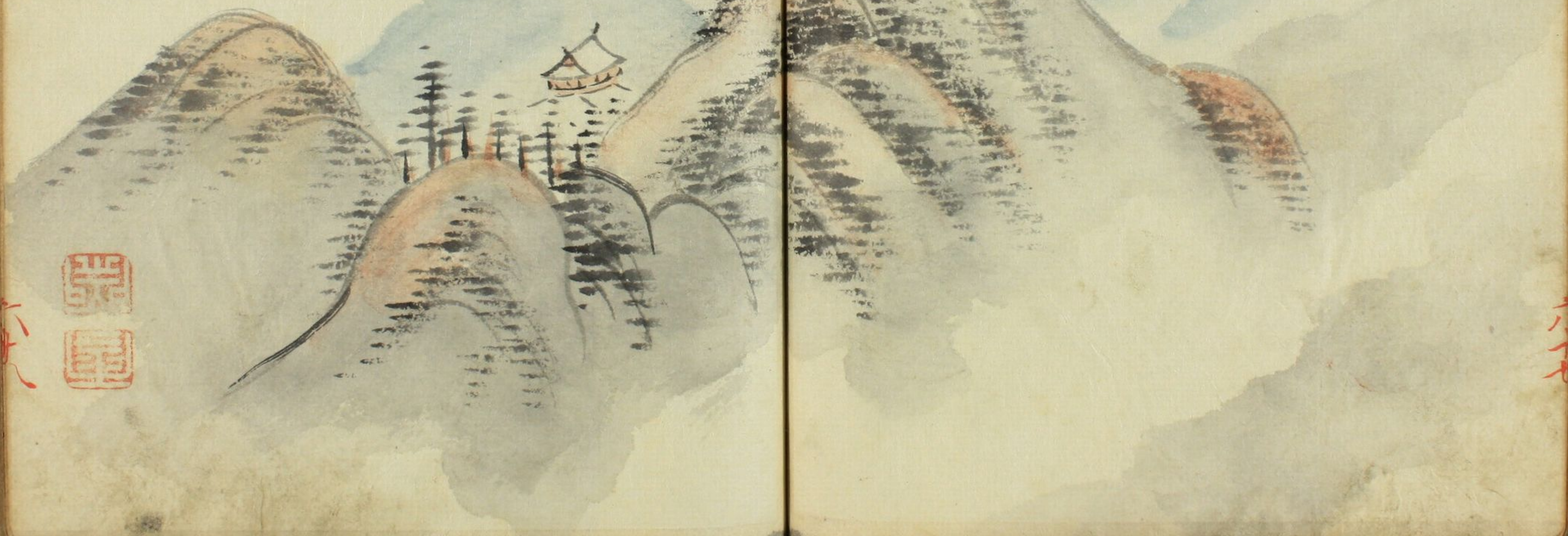
菊堂



枯乃花白也

小过也

月夜加存



書窗梅

養真書室裏
窗外一樹
梅清旭
移花紅
滿春
色催



秋日前夕附
宗近

黃半主人



乃



去歲今夕

柳

一枝





榮光



雨



百平壽
因壽以寧



美華七

乃里此

原以也

令報

打油湯火

美心



美山



麻六



さうろつえま

ほすきね

きみおの

しんさき

かきりる

六

三

三

少くも

二り

月

舟

除



雲々

茂喬 漆戸氏

渾軸もい

又の層

茂喬

り

中

中

あ

晉齋玉璇狂虫



余愚陋之小人素
無詩又無文焉列
先士之園哉固辭不
許狂虫以塞其責
而已

晉齋玉璇



余少歲訪沈約於

園為平角友由友

人之法深者此書通

帖造平坡書之笑

已 晉文公 法

字庫小鳴

无妨

物心定已可氣

起平

風亦宮櫺宮至四
旅亭曉發破雲春
月殘猶拭林梢上
野寺樓鐘撞不韻

再見道人
再筆



登發一闕途中

作

再見道人



竹と馬鹿





御物也
相取

七
子

子
如

并



高

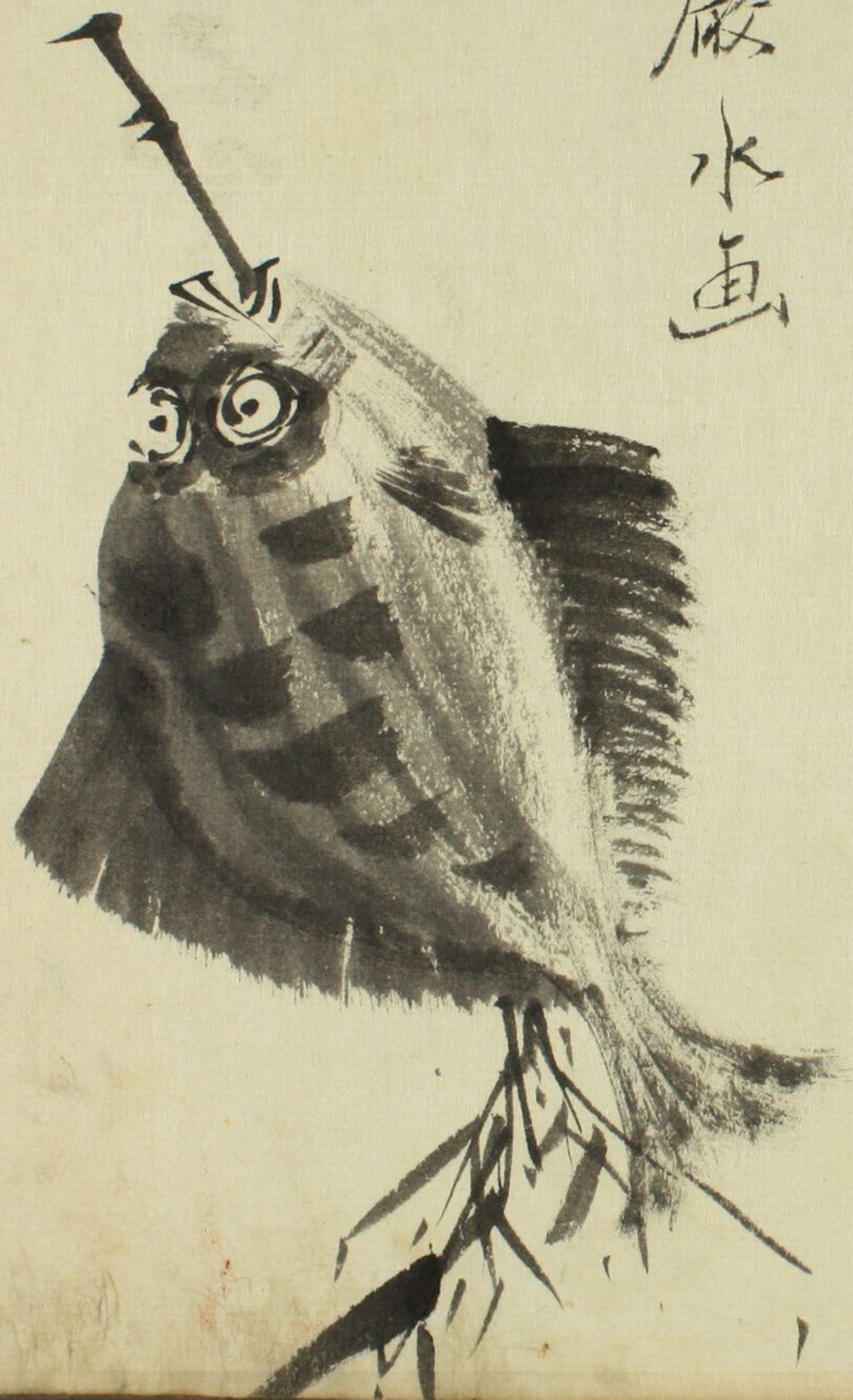
子

保

藏



巖水画



色之丸

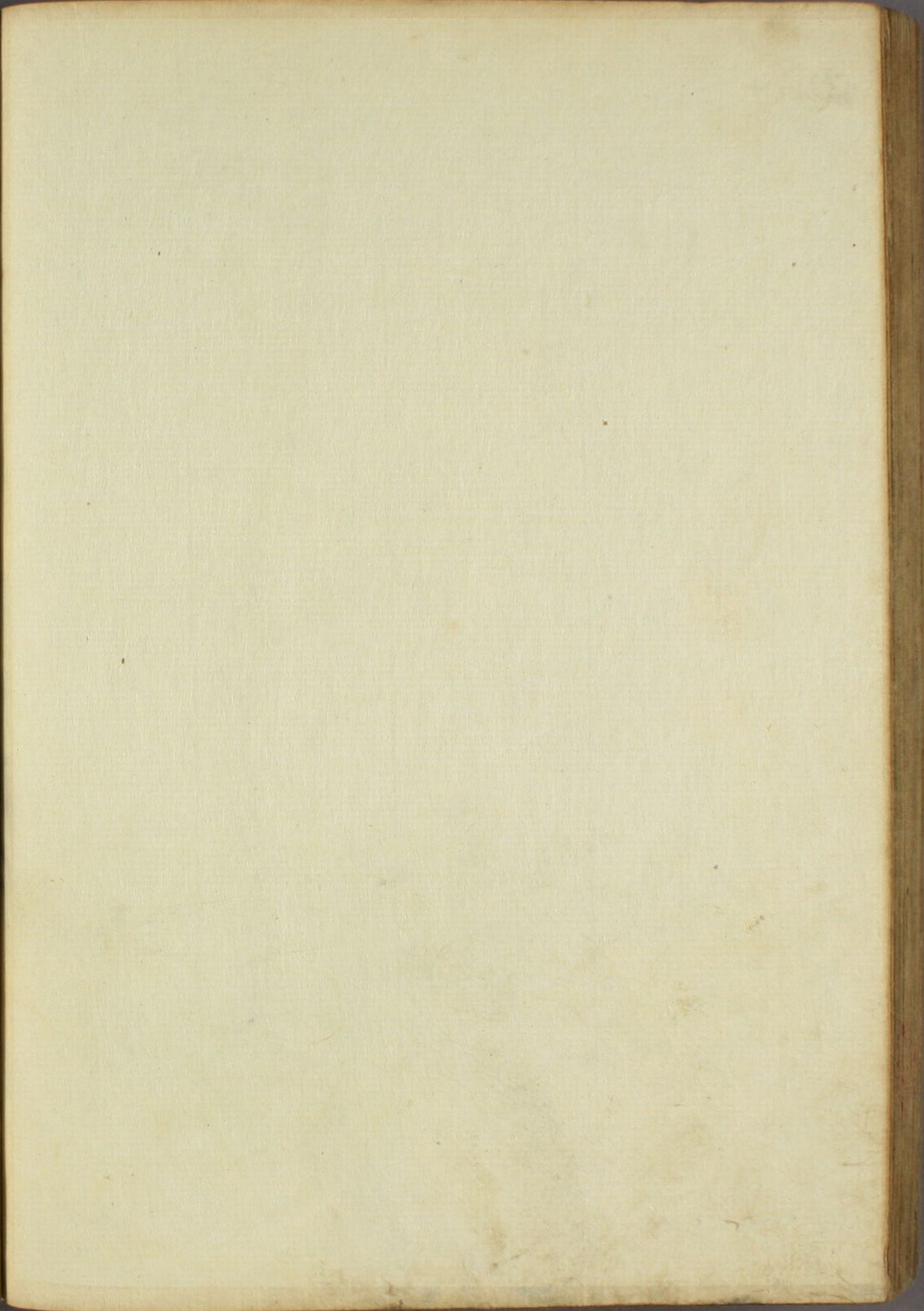
月日女提

舟提

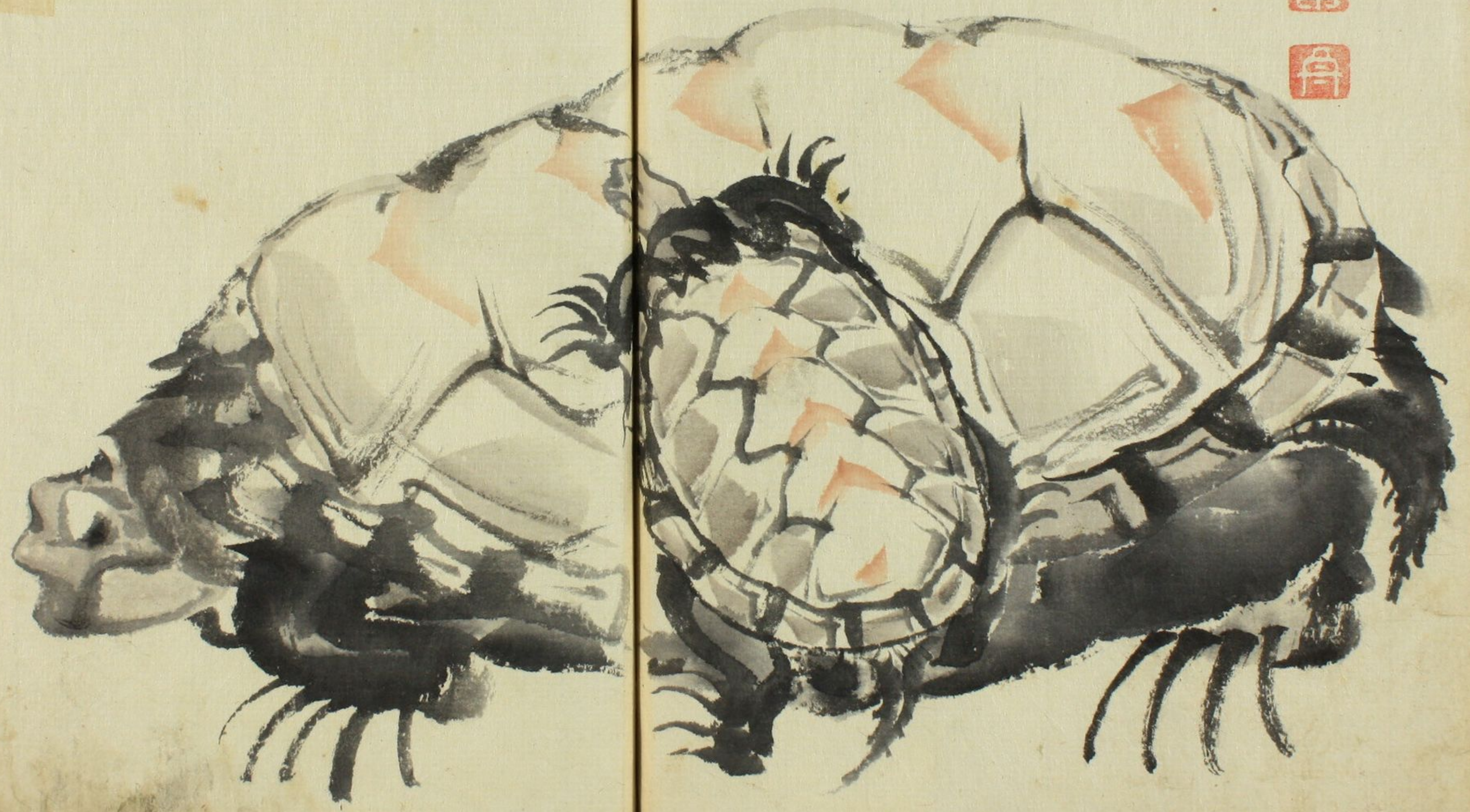
東一



二六九



福是
物是
人



東舟



Buzzles beibouill!
Amusable grenuill!
What different is it.

Bei bouill beibouill!
Buzzles beibouill!
Vais être toujours
me content de choqui.

~~Amusably~~ grenuill!
Grenuill
Amusable grenuill!
Quelle pitié être-va
content habité!

Oh, ma die.



Handwritten Japanese calligraphy in three vertical columns. The rightmost column contains the characters 'シ' (Shi) and 'ト' (To). The middle column contains '羊' (Yō) and '乃' (No). The leftmost column contains '流' (Ryū) and '録' (Roku). The characters are written in a fluid, cursive style.



秋 美 海
 乃 延 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃

和
号九万海
盛岡人
秀和久



あさうほの花葉

しまぬねのらふ

和秀



あ

あはれなるく國の事

結風

あはれ

あ

姓大信田名高通
号春宵亭盛園
人琴雨

あはれなるく國の事
あはれなるく國の事

琴雨

二月 八日

姓白銀号竹亭
津輕吉村人里川

心多事少のあはれ

月夜に
思ふに
あはれ

里川


生 徒 少 少
君 少 少 少

心 多 事 少
牛 少 少 少

春日英




車風も玉ふ

夏のはるの月の

六

文庫



七月一日花の

涼は花は咲く

六

文庫



淋しみの目移り

きさら 秋の暮

ひ月つらき

秋とくわ

あつた

冬の後も

あふはら

子系暖み

秋のあふ

あつた

あつた

きぬくもよき
ふくもよき

年の暮し
あけの夕

有聲



空も月

も

すも
秋の

太

百泉





母あきこ

いもあきこ

おきこ折子色紙

姓福井号亦實庵
津輕弘前人春潮

春潮



公之孫のちりめ

孫一やちのちりめ

お

柳仙



夕之月山

志 吟 々 乳 進 々

子

文 来

月 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

老

身志志

川母

者

者川



物

指

太

何曲

六

はげむけ

おのゝふしの

陰のちり

友三



山富



好 好 山 家 の
 火 乃 ぬり
 人 の 心 成 者 の 心 事
 名 し 一 箇 の 心

北
 清之宮 長峯氏

一
 心 乃 ぬり
 心 乃 ぬり
 心 乃 ぬり



北

木

木

何れも乃日
出たは枇肥のま

竹



志くもる也
多し

其
川



姓浅丹号月巢
津輕吉杜人
白珂



浪の如く

都鳥の如く

月巢白珂



布川

沖傳在門

風を渡りて

あつと来

布川





甚長
其長
其長
其長

長
乃
乃
乃

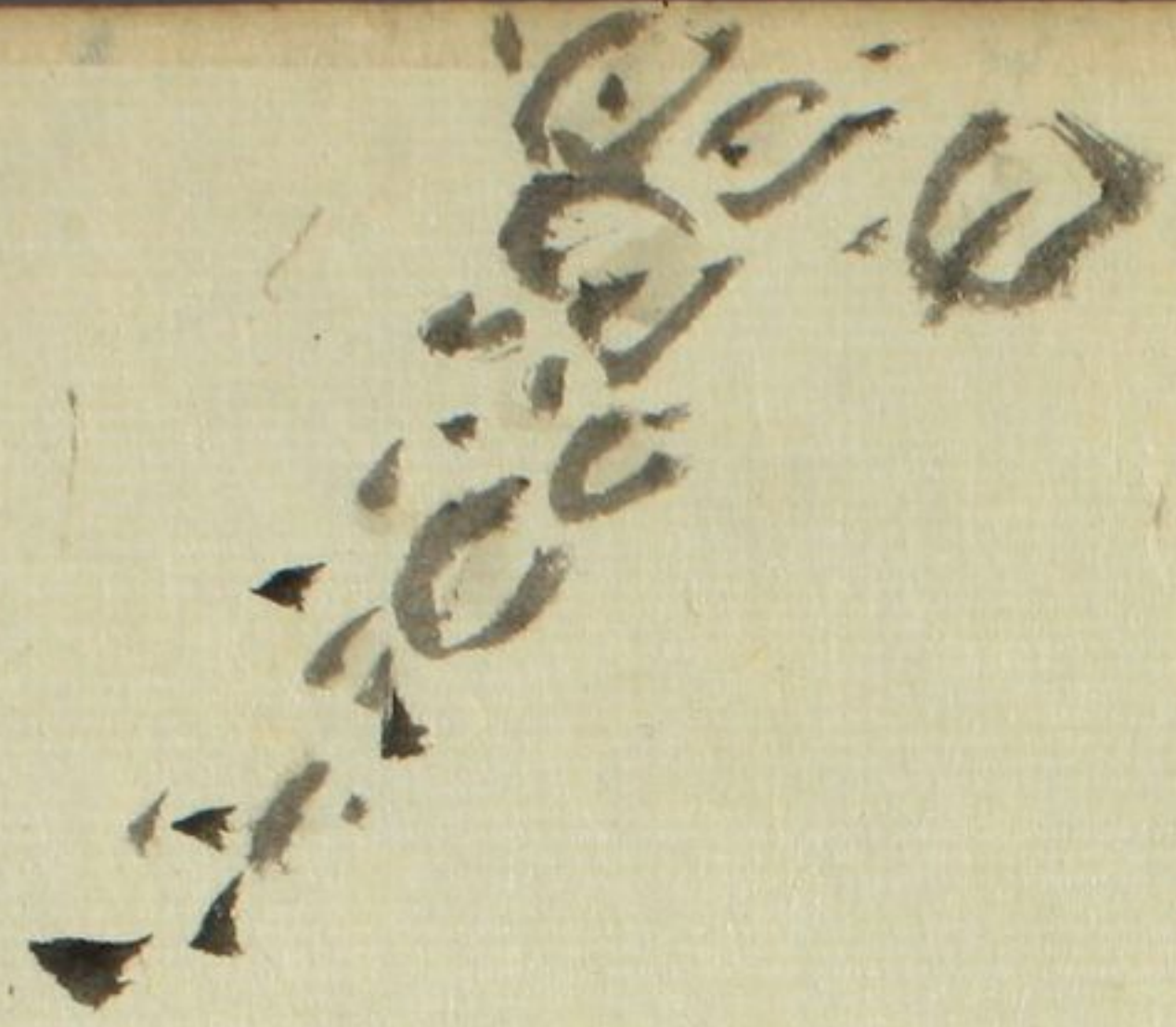
長
長
長

反



姓大郎字謙冲号
龜文屋外ヶ濱音
杜医 尾花庵

花は
さかすか
と
さかすか



花
は
さかすか
と
さかすか



三子古端

初水
道中
子
子
子

姓上林字丙三郎
津輕青杜人 袖山



初水
道中
子
子
子



心
何
我

蘇州府同知





草書

心

一

二

三

草書





新屋美古谷

清書

取一解

茶

新屋美古

谷雄

姓伊藤名祐徳号
柿高庵字俊藏
盛岡人 谷雄



明治歲在甲午。破麻出錮操觚。蛙聲閣。
欲有告吾聲裏。已。
危坐聳聽久矣。一家衰殘何之。孀翁不在。
閣々爲爾淚壘。已。
虎兒在橫也平。爾爲卧牛勤行。因緣存丹。
勿背當年雄名。已。
四姓哀盛夢過。才賢今日鳴珂。爾爲僧。
讀書克警豪華。已。

高臺十年攀躋。坐逼青旻忽低。百憂未收。
休面壁出旧樓。已。
盈々秋水之心。于思歎頹駟氣侵。慎爾行素。
對梅華遠自吟。已。
翁老去枕未安。孀死矣棺骨寒。壯心不止。
安勿爲白骨觀。已。



杉
 も
 山
 り
 出
 る
 籠
 岳
 ぬ

昔
 の
 女
 君
 の
 白
 の
 酒
 瓶
 巴
 亭

空しく久しき身は

雀の口乃

ねくまを

志ね

新雅

又

さよふ来し 梅井言

もるの

つら



松

初
借

の

母





明治廿七年四月 東京 書畫 高橋 山石 忠 蘇 氏 所 著 也
計 概 文 化 年 月 記 人 東 北 人 多 也
桂 谷 山 房 藏



